

(様式1)

平成30年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 075	提案機関名 畜産技術センター
要望問題名 搾乳機器に適したATP検査基準値の検討	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 「ATP検査」とは、汚染指標として食品残さなどに含まれるATPを迅速に検出・測定する検査法で、食品衛生における清浄度検査法として用いられています。「ATP検査」が汚染指標として利用するATP（アデノシン三リン酸）は動物、植物、微生物がその生命活動のエネルギー伝達物質として利用しているものなので、微生物による汚染だけでなく、食品残さに由来した有機物による汚染を検出します。 酪農家の搾乳機器がきちんと洗浄できているか、洗浄後の汚れの有無を目で見て確認し、大体の判断ができます。ただし、見えない汚れが残ることもあります。当所では搾乳機器の衛生管理に不安を感じている酪農家の方に対し、洗浄状況を確認するとともに「ATP検査」を実施し、搾乳機器の洗浄方法の改善についてアドバイスをしています。 現在食品現場での基準値を参考にしていますが、検査対象や検査場所によって適した基準値は異なり、最適な基準値を設ける必要があることから、搾乳機器に適した基準値の検討をお願いしたい。	
解決希望年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input type="checkbox"/> ①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部企画研究課
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) ATPふき取り検査を利用した効率的な乳質改善方法の検討			
対応の内容等 ご要望がありました、搾乳機器に適した基準値の検討につきましては、以下の文献で、乳頭壁清浄度判定基準として500(RLU)という値が提案されており、今後ATPふき取り検査を実施する際はこの値を参考にすると良いと思います。 当所でも、今年度このATPふき取り検査を利用して、効果的な乳頭の清浄度管理手法について検討する予定です。その際に乳頭壁清浄度判定基準としての500(RLU)の妥当性についても検討する予定です。			
解決予定年限	<input checked="" type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考 ATP拭き取り検査による搾乳前乳頭壁性浄度の評価、日獣会誌、榎谷雅文(2013) 酪農家におけるATP迅速検査法の応用による搾乳衛生管理の向上に関する研究、北獣会誌、榎谷雅文(2017)			